

◆ 調査の目的

平成 29 年度の福井市民意識調査において「移住定住の促進」に対する満足度が低いという結果となったことから、より詳細に移住施策に対する市民の意識を確認するため調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」116 ページを、調査結果は 72 ページからご覧ください。

- 「移住を促進する施策を知っていますか」という設問について、54.4%の人が「内容までは知らない」、24.3%の人が「取り組んでいること自体知らない」と回答しました。

今後は、県外在住のご親族・ご友人等に対する UI ターンの声かけにつながるよう、様々な機会を捉えて、市民への一層の周知を図ります。

- 「移住を促進するにあたり福井市の強みは何だと思えますか」という設問について、若い世代では「子育て・教育環境」という回答が最も多く、30～39 歳が 40.8%、40～49 歳が 37.6%でした。

「移住を促進するにあたり重要だと思うことは何ですか」という設問について、「仕事に関する支援」という回答が最も多く、全体の 49.0%でした。

今後は、引き続き若年女性への採用試験交通費補助や市内企業への訪問プログラムを始めとした仕事に関する支援を行うとともに、充実した子育て・教育環境など福井市の住みよさを県外へ向けて積極的に PR し、福井市への移住について関心を高めるよう取り組みます。



◆ 調査の目的

福井市では、「男女共同参画社会」の実現に向けて、市民の男女共同参画意識の醸成に向けて様々な施策に取り組んでいます。

また、近年は併せて「女性の活躍」を推進する施策にも積極的に取り組んでいます。

そこで、今後の施策の方向性を確認するため、市民の男女共同参画及び女性活躍に関する意識と実態を調査しました。

詳しい設問と選択肢は「平成30年度 福井市民意識調査報告書」119ページを、調査結果は76ページからご覧ください。

- 「福井市第5次男女共同参画基本計画」で取り上げた施策を効果的に進めるため、市民の意識を調査しました。

「あなたが参加している地域活動や社会活動は何ですか」という設問について、「自治会・防災防犯」と回答した女性の割合が36.3%でした。地域活動等へ参加する女性が少ない現状があり、割合は29年度より減少していました。

「学校教育の場において男女平等になっていると思いますか」という設問について、「まだ平等とはいえない」が29.8%、「わからない」が36.0%でした。

「平日に1日平均した家事育児の時間」に関する設問について、男性の家事育児時間は「20分以下」が27.9%でした。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みました。

★ 男女共同参画推進員による地域における啓発活動

各公民館から推薦された98名の男女共同参画推進員に、男女がともに担う地域づくりを目指した啓発活動に取り組んでいただきました。

★ 情報誌アイアムへ掲載

男性の家事育児への参画促進を目指し、「家事・育児シェア見える化シート活用講座」や「男女共同参画社会づくり 小中学生図画ポスターコンクール」に関する記事を情報誌に掲載し、男性の家事・育児への参画意識や学校教育における男女共同参画について啓発を図りました。

★ 福井市男女共同参画・子ども家庭センターにおける各種講座・セミナーの開催

講座・セミナーへの参加を通じて、男性に家事と育児の楽しさや手法を学んでいただきました。



◆ 調査の目的

福井市では、健康増進法に基づき、市民の健康づくりの推進と定着を目的に、平成 28 年度から 33 年度までの 6 年間に計画期間とした第 2 次健康増進計画「健康ふくふくプラン 21」を策定しました。

この計画では、運動と野菜の摂取及びベジ・ファーストの普及啓発を図り、関係団体等と協働して市民の健康づくりを支援することとしています。

これらの取組の進捗状況の評価及び市民の健康づくりの推進や定着状況の評価に活用するため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」119 ページを、調査結果は 81 ページからご覧ください。

○ 「日常生活の中で運動をしていますか」という設問について、「ほとんど運動していない」と回答した方が、全体の 35.3%を占めました。

○ 「日常生活の中で積極的に野菜を食べていますか」という設問について、「食べている」と回答した方は、全体の 97.5%を占めました。

しかし、「ベジ・ファースト（食事の最初に野菜から食べる健康法）を実践していますか」という設問について、「実践している」と回答した方は、全体の 70.9%に留まり、28.4%の方は「実践していない」と回答しました。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みました。

★ 「ベジ・ファースト&元気体操 21」DVD の作成

「ベジ・ファースト」や運動の実践につなげるため、「ベジ・ファースト」の具体的な実践方法や家庭でも気軽にできる家事動作を取り入れた福井市の体操「元気体操 21」を啓発する DVD を 500 枚作成し、無料で提供や貸出を行いました。

★ 「ベジ・ファースト」の普及啓発活動

各種健康教室等での具体的な実践方法の周知や、仁愛女子短期大学学生と協働で考案したメニューの提供及びクックパッドでのレシピ紹介、ベジ大使である道端カレン氏の SNS を通じた情報発信等、様々な普及啓発に取り組みました。

今後も創意工夫しながら普及啓発を継続し、生活習慣病の予防につなげていきます。



◆ 調査の目的

「第3次福井市食育推進計画」の数値目標となっているため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成30年度 福井市民意識調査報告書」119ページを、
調査結果は84ページからご覧ください。

- 「朝食を誰と食べていますか」という設問について、「朝食を食べない」と回答した方は、18～29歳では昨年度の12.3%から22.8%に増加した一方で、30～39歳では昨年度の14.4%から7.6%に減少しています。
また「朝食を食べない理由」については、男女とも50%以上が「食欲がない」と回答し、次いで「時間がない」と回答しています。
今後は、朝食の重要性を啓発する取組を継続するとともに、正しい生活習慣の重要性について啓発する取組も進めていきます。
- 朝食を「家族と食べる」と回答した方は64.4%と、夕食を「家族と食べる」と回答した方の85.0%より低くなっています。
また、夕食を「家族と食べる」割合は横ばいで推移していますが、朝食を「家族と食べる」割合は平成29年度（68.4%）と比較すると減少しています。
朝食を「家族と食べる」割合の減少には、「朝食を食べない」割合の増加が影響していることが考えられることから、共食と朝食摂取を併せて進める取組が必要と考えます。
今後は毎年6月の食育月間に行う共食推進事業やイベント等の機を捉えて、朝食の共食推進を図る取組を実施します。



◆ 調査の目的

福井市も賛同する「COOL CHOICE（地球温暖化対策のために日常生活で賢い選択をする国民運動）」の認知度等を調査し、今後の事業計画に活用するため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」119 ページを、調査結果は 87 ページからご覧ください。

- 「COOL CHOICE を知っていますか」という設問について、全体の 55.6%の方が「知らない」と回答しました。

そこで、「COOL CHOICE」を広く市民の方に知ってもらうためのイベントの開催や、ハピテラスの大型ビジョン等における「COOL CHOICE」啓発 CM の放映など、積極的な広報活動に努めました。

- 「家庭にある環境に配慮した製品や設備」に関する設問について、「LED 照明」が 67.3%、「省エネ家電」が 48.1%と高い回答を得ており、市民の省エネに対する意識が高まっているものと思われます。

今後も引き続き、環境意識の啓発に努めていきます。

- 「地球温暖化対策の取組」に関する設問について、「LED 等省エネ製品への買い換え」が 56.0%と高い回答でしたが、他の取組はまだまだ低い結果となりました。

そこで、イベント開催時に「COOL CHOICE」の取組事例の紹介や展示等を行い、地球温暖化防止に関する取組の啓発に努めました。



◆ 調査の目的

福井市本町通り地下駐車場の認知度や利便性、駐車場の不足している地区を把握するため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」120 ページを、調査結果は 94 ページからご覧ください。

- 「福井市本町通り地下駐車場をご存知ですか」という設問について、60 歳以上の年齢層では「知っているが、利用したことはない」との回答が多かったため、当駐車場は駐車が苦手な方も安心して利用できる機械式駐車場であることを PR していきます。
- 「駐車場が不足していると思うところ」に関する設問について、「JR 福井駅周辺」と回答された方が 50.1%を占めています。
「JR 福井駅までの交通手段」に関する設問について、「自家用車」と回答された方が 34.9%あったため、福井市駐車場整備計画の見直しにあたり、JR 福井駅周辺の駐車場調査を行いました。



◆ 調査の目的

福井市スポーツ推進計画の進捗状況を確認するため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」120 ページを、調査結果は 98 ページからご覧ください。

- 「日常生活の中で運動をしていますか」という設問（報告書 81 ページ）について、「週 1 回以上」と回答した方は 54.4%であり、福井市スポーツ推進計画に指標として掲げている、平成 35 年度に 65.0%（無回答除く）とする目標に近づいています。
- 「運動やスポーツを行いたいと思いますか」という設問については、「行いたいができない」が 38.6%、「もっと行いたい」は 29.7%となっています。
性別では、男性は「行っている」割合が高く、女性は「できない」割合が高くなっています。
年齢別では、年齢層が高くなるほど「既に行っており、満足している」割合が高くなる傾向にあります。
- 「運動やスポーツを行う条件」に関する設問について、「身近なところに施設があれば」及び「自由な時間が増えれば」が約 50.0%ずつという結果になりました。
なお、福井市スポーツ推進審議会において、調査は運動やスポーツが「できない」「関心がない」人に絞って実施した方が良いという意見があったため、今後の調査では設問をより工夫します。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みました。

★ 福井市スポーツ推進審議会において報告

平成 31 年 1 月 30 日に開催した福井市スポーツ推進審議会において、調査結果を報告し、議事と併せて了承をいただきました。

今後も、関係団体等と連携し、市民体育大会や各種スポーツ大会を開催するなど、市民がスポーツ活動に参加する機会を増やし、福井国体・障スポの開催で高まった機運が 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会以降にも持続するよう努めます。

また 31 年度には、福井市スポーツ推進計画の見直しを予定していますので、調査結果を計画の指標や施策に反映していきます。

★ 生涯スポーツ推進事業の継続実施

現在、生涯スポーツ推進事業として実施しております「さわやか健康体操教室」「元気力アップ健康体操教室」や「ファミリーミニマラソン」を、市民が興味を持ち、参加しやすい内容となるようブラッシュアップを重ねながら事業を継続していきます。



◆ 調査の目的

福井市の文化芸術活動の拠点である文化会館について、新たな文化会館の管理・運営方針策定の参考とするため、市民の意向を調査しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」120 ページを、調査結果は 102 ページからご覧ください。

- 文化会館の再整備については、財政再建計画に基づき計画期間中（平成 30 年度～平成 35 年度）は事業を先送りすることとなりました。
- 今回の調査結果につきましては、文化会館管理・運営方針を検討する際に活用させていただきます。



◆ 調査の目的

働き方改革を推進する上で、どのようなことが必要と認識されているのかを明らかにすることで、適確な事業の推進を図るため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」120 ページを、調査結果は 107 ページからご覧ください。

- 「働き方改革を進めていく上で重要だと思う取組」に関する設問について、「上司の意識改革」と回答した方が 36.1%、「職場の雰囲気づくり」と回答した方が 21.4%でした。

調査結果から、企業における「働き方改革」に関する取組を促進するための、奨励金の交付やセミナー実施等の事業について有効性が確認できたため、今後も実施していきます。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みました。

★ 育児応援企業養成事業、目指せ介護離職ゼロ推進事業

育児休業（介護休業）を取得する従業員の代替要員を初めて雇用した企業や、育児（介護）短時間勤務制度を初めて従業員に利用させた企業に対し、奨励金を交付することで、職場環境の整備を支援しました。

★ 「ワークライフバランスセミナー」の開催

市内中小企業の経営者や、人事担当者を対象に、働きやすい職場環境づくりを進めることが、企業にとっても従業員にとってもメリットがあることを伝えるため、セミナーを実施しました。



◆ 調査の目的

福井市観光振興計画において、特に市民と関わりの深い施策に関して調査を実施しました。

観光客に「おもてなし」を感じてもらうためには、市民に観光客を受け入れる気持ちがあることはもちろん、市民が自分から観光客にアプローチすることも大切と考え、「おもてなしの向上」について調査しました。

福井を知り、良いところを自覚できる市民が増えていけば、観光客とのコミュニケーションが充実していくと考え、「観光を担う人材の育成」について調査しました。

詳しい設問と選択肢は「平成30年度 福井市民意識調査報告書」120ページを、調査結果は108ページからご覧ください。

- 「おもてなしの向上」について調査した結果、観光客に「積極的に声をかける」と「困っている時は声をかける」の合計が31.7%でした。

「ふるさと教育」と「人材育成」について調査した結果、福井の良いところを「積極的に発信している」と「説明できる」の合計が51.9%でした。

今回の調査結果を踏まえ、おもてなしに対する積極性が向上するよう、講習会や研修を充実させていきます。

この調査結果を踏まえ、以下のことに取り組みました。

★おもてなし講習会の開催

福井国体・障スポ開催に向けた、ボランティア研修会のカリキュラムで、おもてなし講習会を開催しました。

講習会は、毎年受講対象者をかえて実施しています。

★タクシー乗務員おもてなし接客術研修の開催

タクシー乗務員を対象に、お客様対応の心構えとともに、業務で役立つ挨拶やふるまいなどの接客術を再確認する研修を実施しました。

★観光おもてなしマイスター認定制度の実施

笑顔で温かくお客様をお迎えできる方を、観光おもてなしマイスター（達人）として認定しました。

また、既存のマイスターの方を対象に、観光おもてなしの実践力向上を実施しました。



◆ 調査の目的

福井市では、平成 22 年に【改訂】福井市都市計画マスタープラン（都市計画マスタープラン）を策定し、その中で『暮らしの豊かさを実感できる「歩きたくなる」まち』を都市づくりの理念として掲げています。

その理念に基づく都市の将来像の実現を目指すため、都市計画マスタープランの達成状況について評価・検証を行い、施策等の達成度や効果を計る指標として、市民意識調査による市民の評価を一部取り入れています。

平成 30 年度においても施策等の達成度や効果を把握する必要があり、また都市計画マスタープランの一部である「福井市立地適正化計画」の改訂の参考とするため、調査を実施しました。

詳しい設問と選択肢は「平成 30 年度 福井市民意識調査報告書」121 ページを、調査結果は 110 ページからご覧ください。

- 「将来どのようなエリアで生活したいか」という設問について、全体の 31.6%の方が「市の中心部と市街地の鉄道駅周辺を除く市街地」と回答しました。

この結果を参考に、居住誘導区域の設定に取り組み、「福井市立地適正化計画」の改訂を進めてまいります。

